



ななま通信

第41号

発行日：令和2年11月吉日

発行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

ななままちマーケット再開！ スツアの賑わいにワクワク！！

鳥羽三丁目から四丁目の商店等の有志が地元活性化のために結成した鳥羽ななままち会主催の「ななままちマーケット」が、十月十八日と十一月十四日に開催され、かどや界限にも久々に活気が蘇った。今年は新型コロナウイルススイルス拡大防止のため日本中で恒例の祭や盆踊り等の中止が続いた。ななままちマーケットも開催を自粛していたが、ほぼ一年振りに実施の運びとなった。西日とも、ななままちにやって来た人たちは、イベントを待ちかねていたかのようになり、楽しみに散策していた。

《ななままち界限復活！》

十月十八日に行われたマーケットは、三丁目の糺屋さんが中之郷会館で鳥羽ななままち地域子供食堂を開催し、予約制で二色そばの弁当を提



供した。松井 酒店さんと中 村松兵衛商店 さんは西念寺 さんの参道入口にあるセド



マチ広場でヨーヨー釣りを実施したところ、あつと言つ間に人だかりができ、用意したヨーヨーは瞬間に無くなったそうだ。

かどや前では、出店の常連でセンス抜群のきよみちゃん、手作りバッグやアクセサリー等を販売。その隣には、初参加のふーちゃんがフリーマーケット風に洋服や手作りのマスコット、イヤリング等を並べ、人の輪ができた。

普段は人通りもまばらな通りだが、この日は午前十時前から人が歩きはじめ、かどや前の店も洋服やバッグ等を見定める人たちで賑わった。かどやにも久々に五十人を超える人達が入館し、鉛筆画の展示や秋色が増した庭等を楽しんでいた。

《コンサートも再開！》

十一月十四日は「ななままちサンセット」と題して西念寺さんを中心にセドマチ通りやななままち加盟店前に竹あかりが灯され、夕暮れ時のななままちに人が行き交った。



かどやでは、手作りの五平餅や大芋をはじめ無農薬レモン等を販売。「コロナ禍で長く自粛していたコンサートも実施した。

コンサートは、竹あかり点灯開始の五時から六時迄行われた。会場は感染予防のため屋内ではなく、かどやの駐車場をステージとし、観客は道路を隔てたかどやの軒下付近に陣取った。この日は日暮れてからもそれほど寒くはないのが幸いし、四十名を超える人たちが集まってくれた。

今回は、かどやの音楽教室等に参加しているグループの成果発表が目的で、フォークバンドのかどやセッションズ、小唄のつくしんぼ会とオカリナ教室に加え、かどやに展示されているオルガンの演奏も行われ、ジャンルの異なる音楽を楽しんでもらった。特に、オカリナは、かどやと磯部教室の生徒十一人が「旅愁」と「涙そう

そう」を演奏し、迫力ある澄んだ音色が街角に響いた。最後はオルガンで「新世界」の第二章と「フルゴ」が演奏され、クラシックの荘厳さが観客を魅了した。

第二の人生で才能開花！

十月と十一月の展示は、共に定年退職後に始めた趣味の世界で、大きく才能を開かせた二人の作品展だ。

《地元の魅力を鉛筆で描く》

十月の展示は、南伊勢町の瀬古久司さんが鉛筆で描いた「伊勢志摩六十景」だ。瀬古さんの作品展は平成二十九年(2017)にも行われ、今回は一回目。初回は鳥羽市内と地元南伊勢町を描いた作品が並んだが、今回は鳥羽の離島四島と伊勢市志摩市など三市四町を描いた六十点が披露された。前回は全て黒鉛筆で描いたものだったが、今回は二十六色の色鉛筆を使った作品も加わった。



元船乗りの瀬古さんは、もともと絵が好きで、五十九歳の定年を機に、独学で鉛筆画を始め、「伊勢志摩にはいい所がたくさんあるので、作品を通じて地元の魅力を知ってもらえたら嬉しい」と

「潮騒」執筆のため三島由紀夫が滞在した神島の寺田邸



菅島の冷泉寺

話す。
三島由紀夫の小説「潮騒」の舞台となった神島の旧陸軍施設「監獄哨跡」や、現存する日本最古のレンガ造りの菅島灯台をはじめ、各地の寺院や学校、何気ない町の風景などが丁寧に描かれている。「あつこ親戚の家や」「これ、私の母校やわ」等、馴染みの風景を喜びお客様もいた。

今回は、見学してくれた方への土産として、「この中から一枚、好きなものをお持ち帰りください」と瀬古さんが厳選した十か所の絵も準備。お客様は「これにしようかしら」と嬉しそうに絵を選んでいった。

「伊勢志摩には、まだまだ描きたい魅力的な場所がたくさんある」という瀬古さん。「かどやさんの周りにも絵心を掻き立てられる場所がここ」「と、かどやに来ると必ずスケッチブックとカメラを片手に、なにか境界線の散策に余念がなかった。

創作意欲が尽きない瀬古さんの今後の活動にも目が離せない。

《削りもの漆器に魅せられて》

十一月の展示は「杉谷三朗展 木のうつわたちⅡ」で、平成二十九年二月に次いで二度目の出展だ。

杉谷さんも定年退職後、物づくりに興味を持ち、桜や栗、樺などの木を削り、そこに漆をほどこす削りもの漆器を独学で始めた。2017年には「国際漆展・石川2017」でなんと金賞を受賞。翌年には「みえ県展」で最優秀賞(三重県知事賞)、2019年は第二十七回テンプルウエア大賞入選、今年は第五十九回日本クラフト展で毎日新聞社賞を受賞するなど、素晴らしい作品を作り続けている。

今回は、過去の受賞作品に加えて、皿や盆、椀、盃、一輪挿し等の新作



約五十点が展示された。さらに昨年から新しい試みとして、銀彩箔(銀箔)樹脂に樹脂



と顔料・染料で加工した着色箔)を使った作品にも挑戦。落ち着いた漆塗りに銀彩箔の彩りが加わった盆や重箱も披露されており、気品と斬新なセンスに溢れる

作品群が、見学者の目をくぎ付けにしている。木工細工が趣味というお客様は、一つ一つの作品をあらゆる角度から眺めては感嘆のため息をもらし「勉強になりました」と、満足げだった。

なお、杉谷さんの展示の様子は、CBCテレビの夕方の情報番組「ちやんと」で紹介された。

* * * * *

今回紹介したお二人は、共に定年退職してから、好きな趣味を見つけられたのだが、独学でここまで極められるものかと、驚いた。

かどやには趣味の教室がいくつもあり、熟年層の方も多数おられるが、趣味に没頭している皆さんはとても生き生きしている。熟年層の一人として、見習わねば。

縁の下の仲間たち特集!

今年は、かどやもコロナ対策で様々な活動を自粛してきたが、感染防止対策を講じながら六月から少人数の教室を再開。参加者が十名を超える「野の花と万葉の会」も始まった。1ページで紹介した「なかまちマーケット」も復活し、十一月の竹あかりイベントではかどやスタッフが久々に大奮闘した。

* * * * *

今年で三回目を迎える鳥羽なかまち会主催の「なかまちサンセット」は、竹あかりを楽しんでいただくため、午後五時に西念寺を中心に門前のセドマチ通りや加盟各店舗にかりが灯された。サンセット・バルと称して唐揚げや焼き肉、おつまみセット等を準備する店もあり、夜のなかまちも賑わった。かどやは過去2回、開館時間を延長して館内でコンサートを行ってきたが、今回は三密を避けるため、会場を屋外に移して夜のコンサートを行った。

《会場設営に神対応!》

初の野外コンサートでしかも夕暮れ時。音響装置はもちろん、照明など会場設営も初経験だったが、こ

ユージさん肝いりの特設ステージ



こで力を発揮したのが、ユージさんだ。金刀比羅宮の役員や町内会等でも活躍しているユージさんは、幅広いネットワークを活用し、

会場設営用の備品をここから調達。さらにビール瓶のケースの上に絨毛氈を張り付けた板を乗せた即席の観客席も作ってくれた。当日の午後にはコンサート会場となる駐車場に絨毛氈を敷き、車除けのコーンを並べ、照明器具や音響装置もコツコツと一人で準備してくれた。ユージさんの神対応によって、普段なら漆黒の闇に包まれる夜の駐車場が明るいコンサート会場に变身し、出演者は気分よく演奏することができた。

《四人組、五平餅に挑む!》

「ええっ!節ちゃんがこられない!」。本番を数日後にひかえた日の驚きの声だ。これまで五平餅作りは、料理が得意な節ちゃんが担当してくれていたが、今回はよんごころない事情で参加できなくなったのだ。一瞬不安がよぎったが、責任感の強い節ちゃんは二日前に五平餅



のたれ作りでかどやを訪れ、当日用にシピも準備してくれた。

当日は、万葉の会の講師・カヨさんがリーダーとなり、まゆみ塾のまゆみさん、竹あかりコンサート出演するゼンザースのふうちゃん、ミホちゃんの四人がタッグを組んで五平餅作りに挑戦した。

朝九時半に二升の新米を研ぎ、十時にガス炊飯器点火。炊き上がった米はすり鉢で潰し、串をさして成型するのだが、冷めるとコメが固くなり五平餅特有の形が作りにくくなるので、炊き上がったからは時間との勝負だ。ところが、炊き立てのご飯は熱い。しかし熱さにひるんでい

ては形がつかれない。辛い作業では熱くて手がふやけちゃう」という苦難も四人で乗り越え、成型作業は無事完了した。と思いきや、作業はまだまだ続く。あわただしく昼食すませると、串に刺し



た餅をホットプレートで焼き、たれを塗り、パックに詰め終えたのは午後三時を過ぎていた。試食をすると、「きゃあ、おいしい!」と自我持参。「あとでゆっくり食べようね」と誓ったが、お客様もおいしさをよくご存知で、五平餅は好評で完売した。奮闘した四人組は、味見で少しかじっただけで、五平餅を堪能するには至らなかったが、心地よい達成感に満たされていたようだ。

《イベントは楽しい!》

「疲れたけど、楽しかったなあ」なんてこ舞いの一日が終わり、マーケットの後片付けをしながら、スタッフ同士でうなずきあった。

コンサートの出演者たちも「久しぶりに緊張したけど、何とか終わって楽しかった」と、だれもが安堵の表情を浮かべた。

小唄を習っているが、春に予定していたおさらい会が中止になり、最近練習をさぼってはかり。そこで目標を持たねばと、コンサートを企画したが、リハーサル時はポロポロで、企画したことを大いに悔やんだ。しかし、終わってみれば達成感が溢れてきた。演奏だけでなく、五平餅の準備もしい。イベント独特のこの緊張感はたまらない。

成果発表に向けて

現在かどやでは、趣味の教室が多数開かれており、これまでの成果を発表しようと、頑張っている教室も少なくない。

平成二十七年四月に始まった「ときめき川柳教室」は、平成二十九年からほぼ毎年、作品集を出版している。他にも成果発表を目標に作品作りに頑張っているグループがあるので、紹介しよう。

「**手芸倶楽部**」は大屋美恵さんを講師に迎え、平成三十年四月から始まった。当初は、吊るし飾りを作っていたが、昨年末にほぼ完成し、今年一月からは干支作りに挑戦している。



完成したそれぞれの作品は、今年は自宅に飾り、かどやでの展示は来年二月の予定だ。現在は明るくおらかな大屋さんを囲み、かどや用の仕上げにまい進している。

「めぐちゃん」

こと蘭田恵さんが講師を務める「めぐ倶楽部」

は、羊毛フェルト作りの教室だ。同倶楽部は来年十月を目標に、めぐちゃんが生徒さん一人ひとりに作品のアイデアを提供して、盛り上げている。



平成三十一年二月から始まった「**みるふい倶楽部**」は、令和四年一月の展示が目標だ。志摩市出身の丸井靖子さんが講師で、「額の中の3Dアート」とも呼ばれるシャドーボックスを作っている。十七世紀にヨーロッパで流行したそうで、同じ絵柄の紙を複数枚用意し、パーツ毎に切り抜いて何層も重ねることで影（シャドー）ができるために名付けられたもので、立体感あふれる作品が特長だ。

それぞれの教室の生徒さんたちの、今後の頑張りが楽しみだ。

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

◆◆◆貸部屋の案内◆◆◆
かどやを有効にご活用いただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。
詳細は、かどやへ。
電話〇五九九二五八六八六

かどや保存会 令和2年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援してくださる会員を募集しています。

昨年度の会員数は311名で、前年度より約50名減少しましたが、令和2年度も11月15日現在268名と減少傾向が続いています。新型コロナウイルスが社会全体に大きな影を落としている昨今ですが、スタッフ一同皆様の憩いの場所となるよう日々努力を重ねておりますので、引き続きご支援いただきますようお願いいたします。本年度の会員登録がまだの方は、登録を何卒よろしくお願い申し上げます。

令和2年度(令和2年4月1日～令和3年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

(1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

(2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751